

事業計画及び成長可能性に関する事項

2026年3月26日

ご説明内容

- 01 | 事業内容
- 02 | 市場環境と自社のポジショニング
- 03 | 競争力の源泉
- 04 | 今期の業績概要
- 05 | 来期の事業計画
- 06 | 事業上のリスク

01 事業内容 – 当社の存在意義

当社は、情報配信・コンテンツ制作を通じて上場会社のIRに関する悩み・課題を解決する“ソリューションカンパニー”です



“誰もが知る大企業でもない限り、IRを積極的にやらないと投資家認知は得られないため、そのお手伝いしたい” というのが当社の存在意義

01 事業内容 - 当社が果たす役割

メディア機能



上場しているお客様企業の魅力や強みを当社の情報配信PFを通じてあらゆる投資家に配信します

注目企業は当社が保有する有名雑誌やラジオ枠の中でも特集し、投資家の認知度向上を加速させます

コンテンツ制作機能



各社に取材を行い、お客様企業の魅力を投資家に伝えるためのスポンサードレポートを発行します

投資家にとって魅力的な決算説明資料や統合報告書などのIR資料を制作します

コンサル機能



エクイティストリーの構築や株主還元設計など、銘柄の魅力向上や認知拡大を促すIR施策の設計を支援します

その他、企業価値向上に向けた営課題全般に対する上流の戦略策定/中期経営計画の打ち出しを支援します

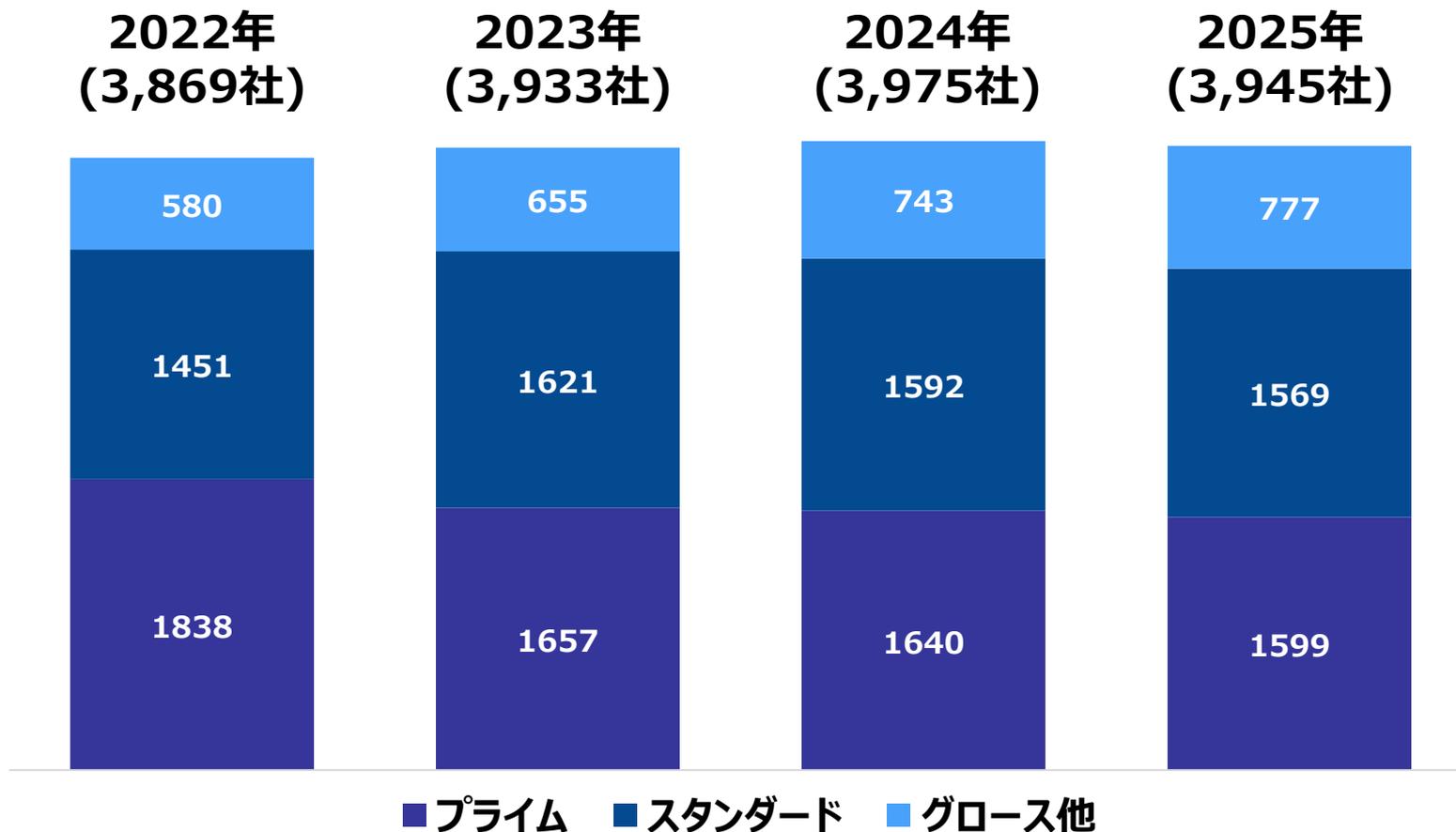
01 事業内容 - 当社の商品/サービスのラインナップ

概要

情報配信/コンテンツ制作	スポンサーレポートの発行/配信	決算公表後に当社アナリストが取材し、お客様企業の特徴/株主還元策や業績ハイライトを踏まえた魅力を配信
	決算説明会動画制作/文字起こし配信	Zoomの録画機能で撮影した決算説明会動画をFisco公式Youtube、文字起こしを当社情報配信PFで配信
	KOL動画の制作/配信	インフルエンサーと企業の特対談動画をFisco公式Youtube、対談内容のテキストを当社情報配信PFで配信
	その他IR資料の制作/配信	投資家に刺さるIR資料全般（決算説明資料や統合報告書等）の企画・制作を行い、当社情報配信PFで配信
コンサルティング	IR戦略の方針策定	当社と関わりのある機関・個人投資家から貴社IRに関わる定量・定性調査を行い、課題整理と改善方針をご提案
	中期経営戦略のストーリー作成/配信	貴社経営層/経営部門とのディスカッション/ヒアリング内容をもとに、貴社中計ストーリーの作成/配信を支援

02 市場環境と自社のポジショニング – 上場会社数

日本の上場会社数はほぼ横ばいで推移している状況

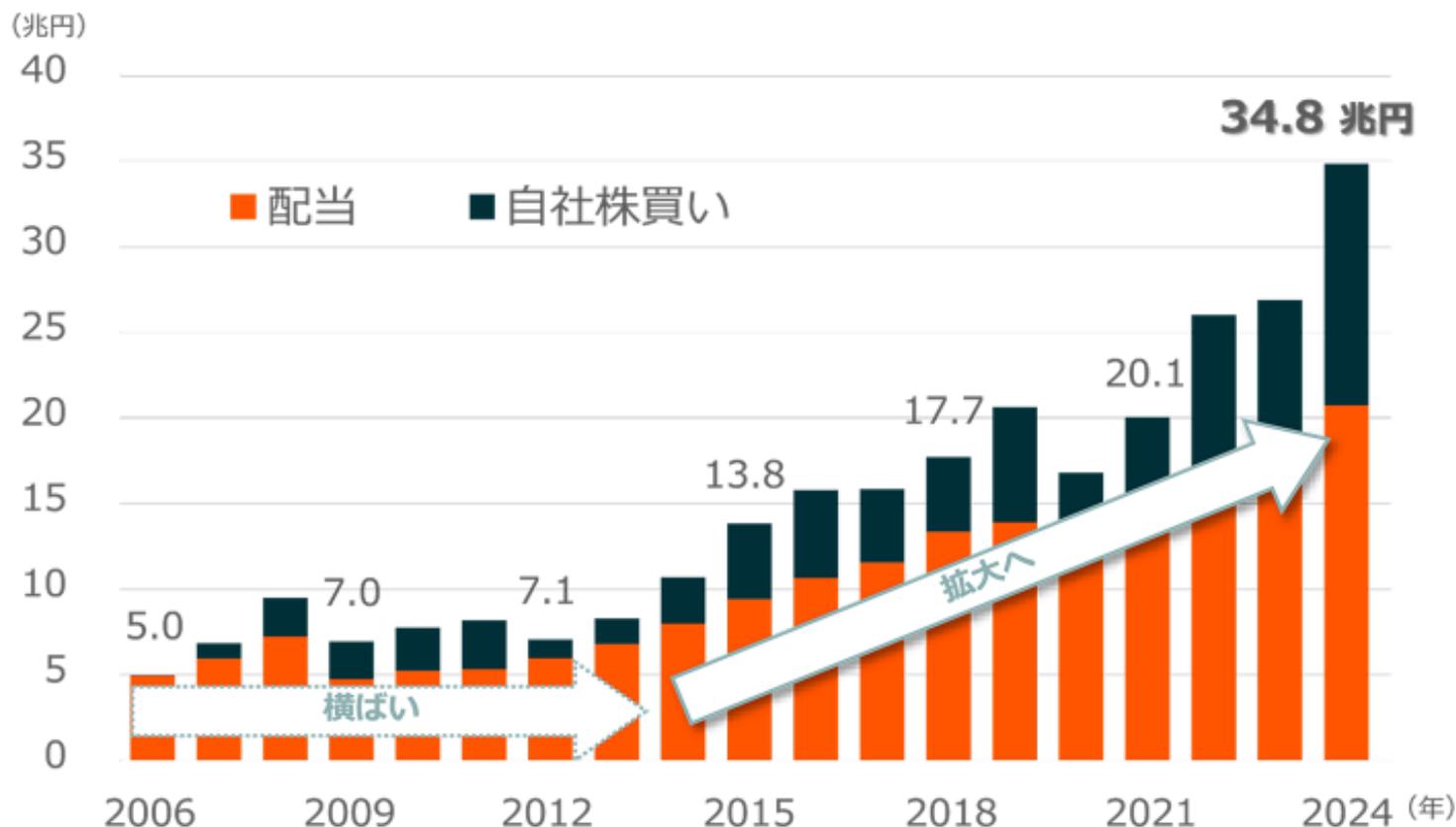


Source: 国内上場会社数の推移(日本取引所グループ 2025)

02 市場環境と自社のポジショニング – 株主還元の動向

株主還元強化企業は増えており、株主還元設計支援の市場ポテンシャルは高まっている

TOPIX構成銘柄の年間配当金、自社株買い金額の推移



Source: BloombergよりGlobal X Japan作成 ※期間は2006年から2024年の年次

03 競争力の源泉 - (再掲) 当社が果たす役割

メディア機能



上場しているお客様企業の魅力や強みを当社の情報配信PFを通じてあらゆる投資家に配信します

注目企業は当社が保有する有名雑誌やラジオ枠の中でも特集し、投資家の認知度向上を加速させます

コンテンツ制作機能



各社に取材を行い、お客様企業の魅力を投資家に伝えるためのスポンサードレポートを発行します

投資家にとって魅力的な決算説明資料や統合報告書などのIR資料を制作します

コンサル機能



当社のネットワークをもとに、機関投資家・個人投資家のビューに基づくIR戦略の策定を支援します

その他、企業価値向上に向けた営課題全般に対する上流の戦略策定/中期経営計画の打ち出しを支援します

03 競争力の源泉 — メディア機能

フィスコの情報配信プラットフォームは、機関投資家/個人投資家が目にする情報源をほぼ網羅しており、“圧倒的な情報配信力”を誇る

フィスコ情報配信プラットフォーム



スポンサード
レポート

ショート
コメント



文字起こし



機関投資家は端末から情報を仕入れるので、端末を抑えることがとても重要

機関投資家



個人投資家



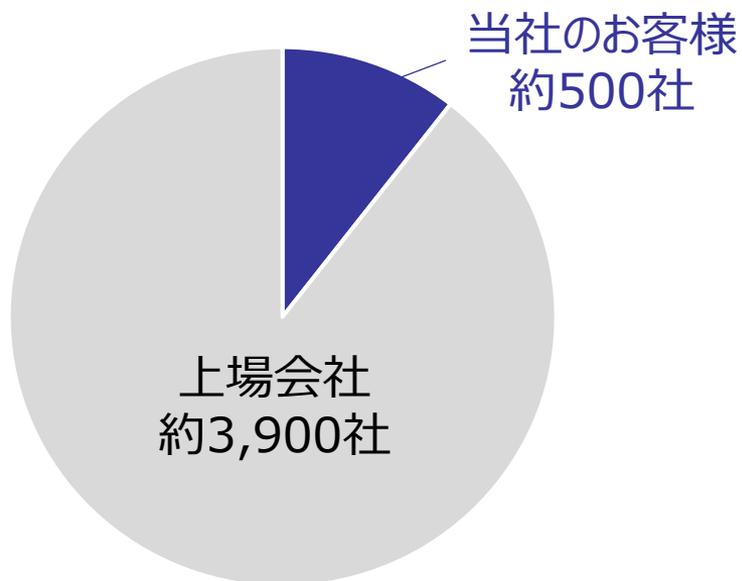
富裕層の個人投資家は証券会社の営業マンから情報を仕入れるので、証券会社のイントラネットを抑えることがとても重要

03 競争力の源泉 — コンテンツ制作機能

スポンサードレポート・その他IR資料のいずれも豊富な取引実績が当社の強み
当社シェアは全体で約10%強を維持しており、拡大傾向

スポンサードレポート

上場会社**3,900社**のうち**約500社**
が当社のお客様



その他IR資料制作

統合報告書/株主通信/会社案内等
その他のIR資料制作についても、過去
約280社の企業との取引実績あり



04 今期の業績概要

個別業績ハイライト

- 売上高842百万円(前期比 Δ 2.8%)、営業利益4百万円(前期営業損失94百万円)と黒字転換達成。最終利益は Δ 8百万円（前年同期は297百万円の当期純損失）となり大幅に改善
- セグメント別では、情報サービス業で、売上高788百万円（前期比 Δ 2.3%）、広告代理業で売上高51百万円（前期比35.2%）
- 自己資本比率は42.0%（前期自己資本比率12.9%）と大きく改善

(注) 2024年12月期から活発な市場が存在しない暗号資産の評価損の表示方法を「売上高」から「売上原価」へ変更しております。

(注) 2024年12月期における数値については、2025年8月8日付けで決算短信の訂正報告書を提出しており、過年度遡及修正における訂正後の数値を記載しております。

04 今期の業績概要

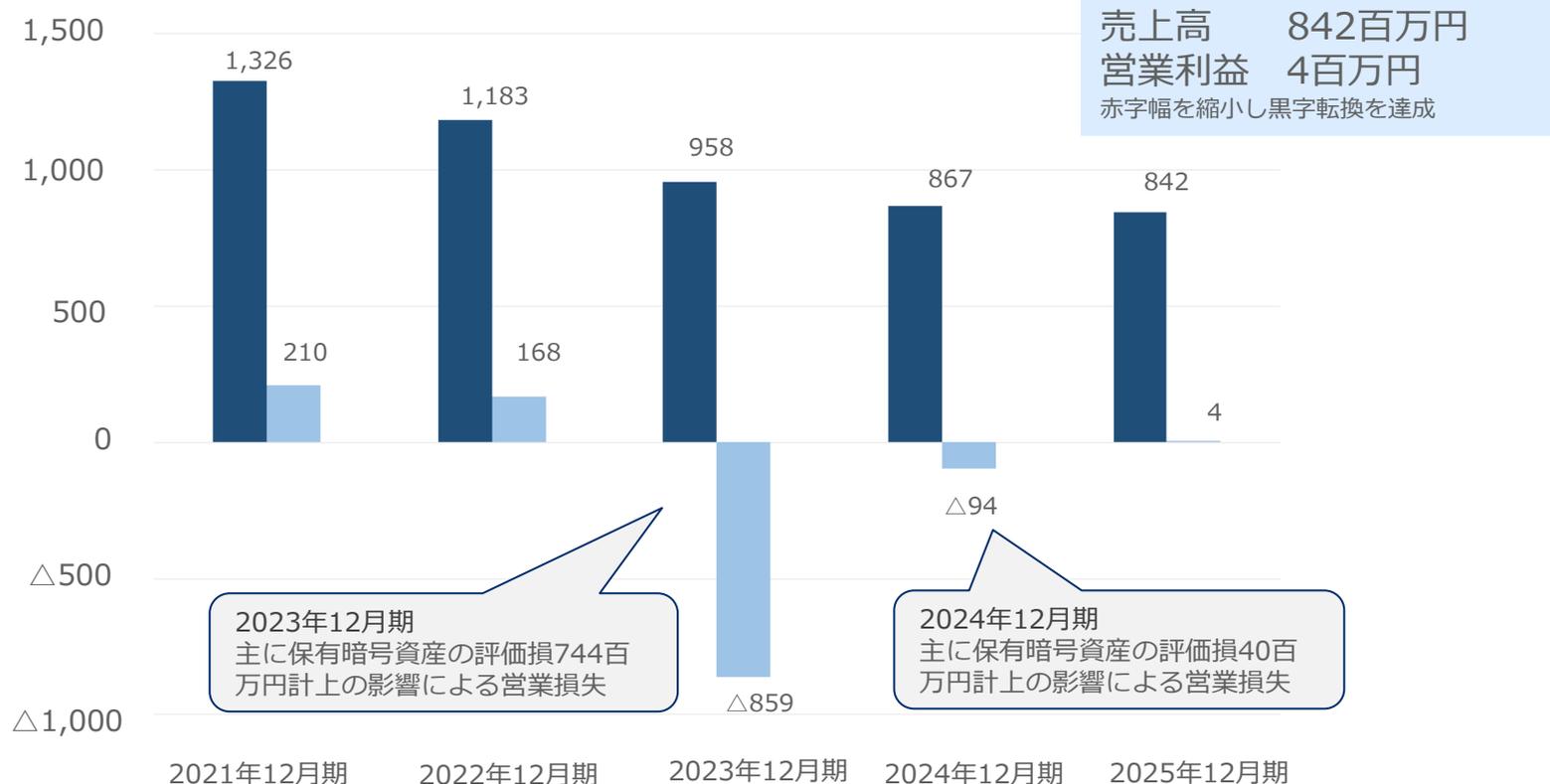
経営目標（KPI）達成状況

カテゴリ	中期KPI目標	2025年実績
売上	前期比15%増	前期比2.8%減 <small>情報配信サービス分野の減収が影響</small>
営業利益率及び 経常利益率	15%以上	営業利益4百万円 経常利益5百万円 <small>新規顧客獲得・コスト削減施策により、 黒字転換達成</small>
自己資本比率	60%以上	42.0%
株主還元	復配	配当0円 <small>内部留保の充実を図り配当原資を確保</small>
IR支援件数	2026年12月期までに 1,850件	1,250件
IR支援会社数	480社	490社 <small>KPIを達成</small>

04 今期の業績概要 – 個別業績推移

■ 売上高 ■ 営業利益

単位：百万円



(注) 2024年12月期から活発な市場が存在しない暗号資産の評価損の表示方法を「売上高」から「売上原価」へ変更しております。2023年12月期については、表示方法の変更内容を反映した後の数値となっております。

(注) 2023年12月期、2024年12月期における数値については、2025年8月8日付けで決算短信の訂正報告書を提出しており、過年度遡及修正における訂正後の数値を記載しております。

04 今期の業績概要 – 利益前期比

情報配信サービス分野においての減収が響いたものの、IRコンサルティングサービス分野にて新規顧客獲得・コスト削減施策により、営業利益・経常利益となり、黒字転換を達成

単位：百万円

	2024年12月期 (実績)	2025年12月期 (実績)	対前年同期比		2025年12月期 業績予想の達成率	
	金額	金額	金額	増減率	金額	達成率
売上高	867	842	△25	△2.8%	887	95.0%
営業利益	△94	4	98	–	30	14.9%
経常利益	△92	5	98	–	30	18.3%
当期純利益	△297	△8	289	–	30	–

(注) 2024年12月期から活発な市場が存在しない暗号資産の評価損の表示方法を「売上高」から「売上原価」へ変更しております。

(注) 2024年12月期における数値については、2025年8月8日付けで決算短信の訂正報告書を提出しており、過年度遡及修正における訂正後の数値を記載しております。

04 今期の業績概要 – セグメント別前期比

情報サービス事業は情報配信サービス分野においての減収したものの、IRコンサルティングサービス分野にて新規顧客獲得・コスト削減施策により、対前年比から増益。広告代理業も増収増益を達成

単位：百万円

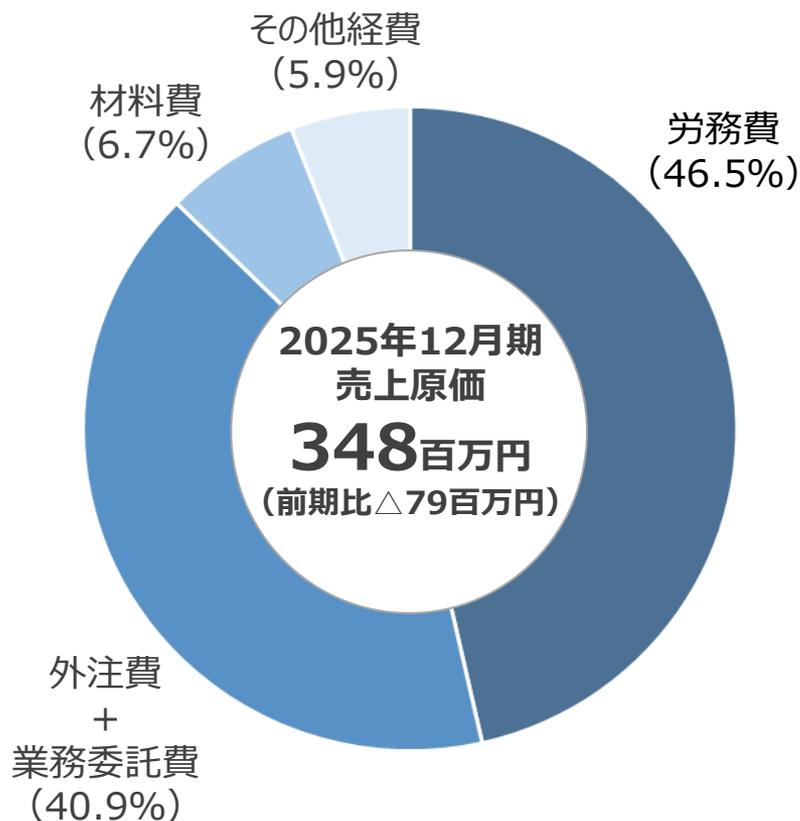
	2024年12月期		2025年12月期		対前期差異	
	売上	セグメント利益	売上	セグメント利益	売上	セグメント利益
情報サービス事業	806	206	788	284	△18	78
広告代理業	37	△8	51	6	13	14
暗号資産・ブロックチェーン事業	2	△36	3	3	0	39
その他	20	7	-	△0	△20	△7

(注) 2024年12月期から活発な市場が存在しない暗号資産の評価損の表示方法を「売上高」から「売上原価」へ変更しております。

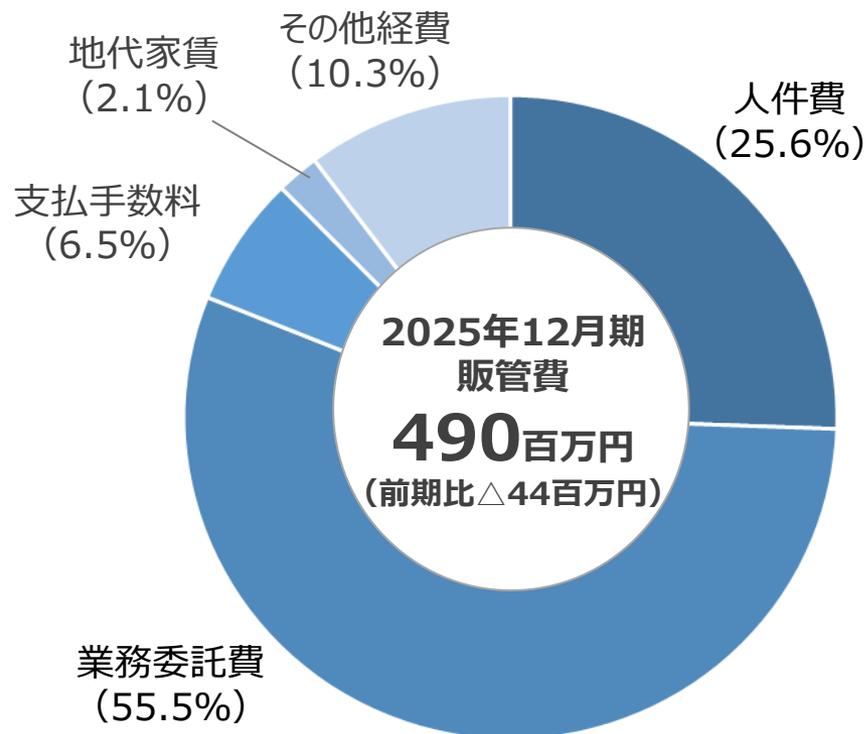
(注) 2024年12月期における数値については、2025年8月8日付けで決算短信の訂正報告書を提出しており、過年度遡及修正における訂正後の数値を記載しております。

04 今期の業績概要 – 原価・販管費構成

■売上原価構成比



■販売費および一般管理費



(注) 業務委託費にはシステム維持費を含んでいます

04 今期の業績概要 – 貸借対照表

単位：百万円

	2024年12月期 第31期	2025年12月期 第32期	対前年対比	
	金額	金額	金額	増減率
流動資産	384	335	△49	△12.8%
固定資産	1,396	2,339	943	67.5%
資産合計	1,781	2,674	893	50.1%
流動負債	112	118	6	5.7%
固定負債	1,432	1,424	△7	△0.5%
負債合計	1,544	1,543	△1	△0.0%
純資産	236	1,131	894	377.9%
自己資本比率	12.9%	42.0%	-	-

(注) 2024年12月期における数値については、2025年8月8日付けで決算短信の訂正報告書を提出しており、過年度遡及修正における訂正後の数値を記載しております。

05 来期の事業計画 – 過去の業績推移と利益予想

2025年12月期は企業調査レポート等新規顧客獲得拡大・コスト削減施策により、減収ながら営業利益を達成。
2026年12月期は、新規顧客獲得継続と更なるコスト削減により営業利益20百万円を想定

単位：百万円

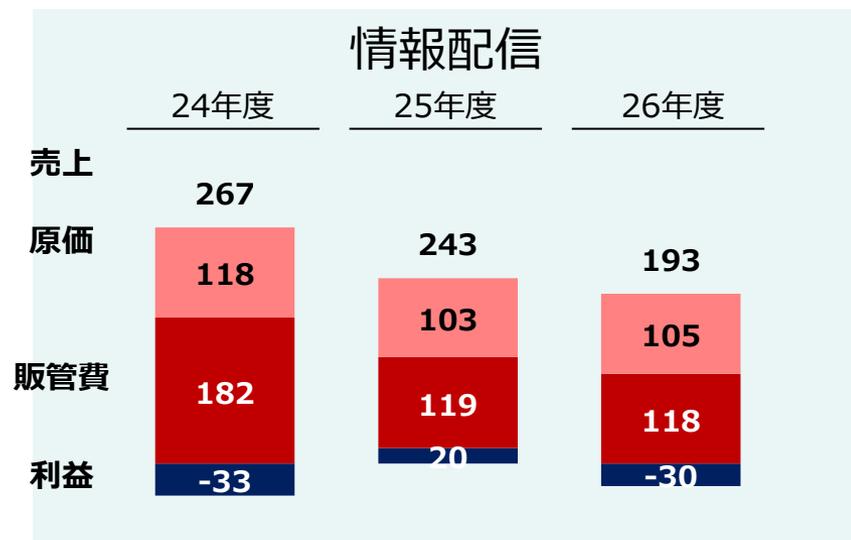
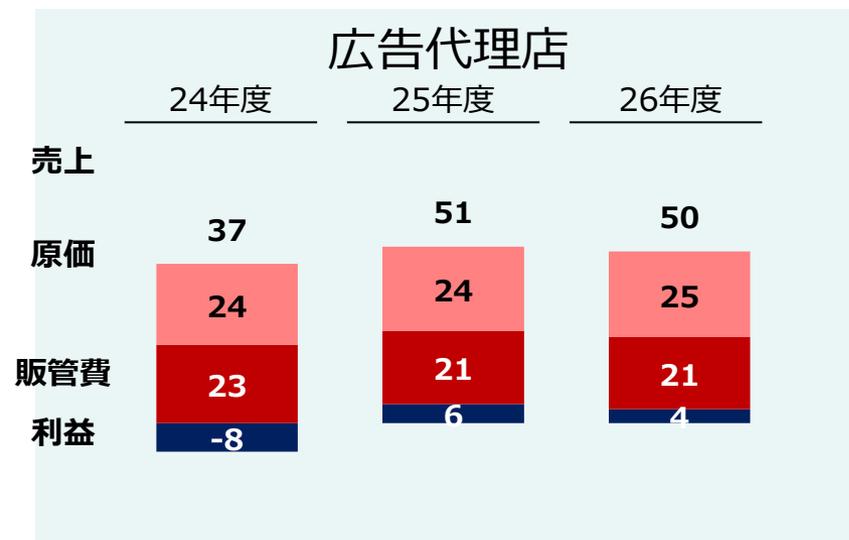
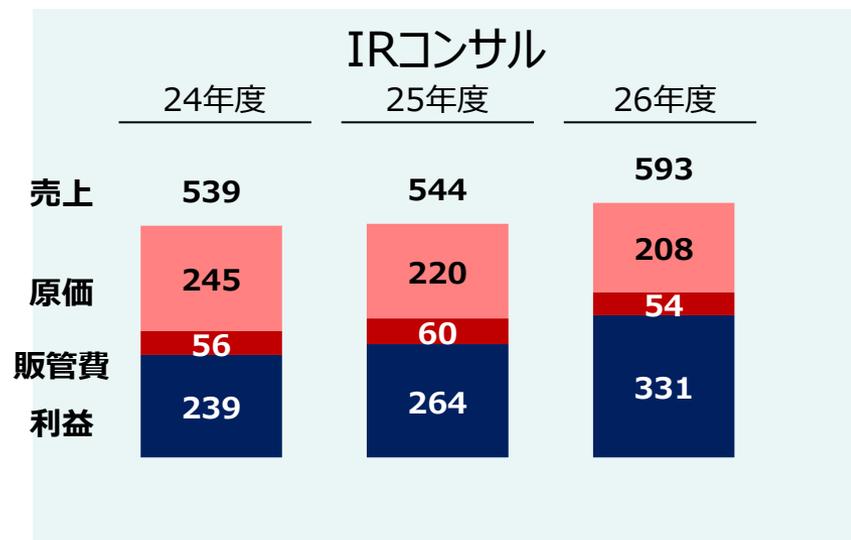
	2024年12月期 (実績)	2025年12月期 (実績)	2026年12月期 (業績予想)
売上	867	842	836
売上原価	427	348	334
売上総利益	440	494	501
販管費	534	490	481
営業利益	△94	4	20
経常利益	△92	5	21
当期純利益	△297	△8	18

(注) 2024年12月期から活発な市場が存在しない暗号資産の評価損の表示方法を「売上高」から「売上原価」へ変更しております。

(注) 2024年12月期における数値については、2025年8月8日付けで決算短信の訂正報告書を提出しており、過年度遡及修正における訂正後の数値を記載しております。

05 来期の事業計画 – 部門別利益推移 (除 本部コスト配賦前)

単位：百万円



(注) 暗号資産ブロック・チェーン事業、投資銀行事業は重要性の観点より開示対象から除外しています。

05 来期の事業計画 – 前期示した事業計画の進捗状況 (1/3)

利益の立て直しが足元的最優先経営課題であるため、事業計画の実行はペンディング中
暗号資産にかかる取り組み、FSCCのバリューアップは、すべてストップ

事業計画：既存事業をベースにした事業展開（金融情報配信サービス）

「フィスコweb 株～企業報」を中心に、新規コンテンツを追加し投資情報の充実を図っており、閲覧数の増加と広告収入の拡大を目指す。

事業展開の方向性

- ・投資教育、金融・経済コンテンツサービス拡充
- ・日本国内および海外機関投資家向けコンテンツの拡大

実施内容



- ・企業調査レポート無料公開



- ・IR時系列一覧
- ・人気ニュース
- ・銘柄評価（銘柄カルテと理論株価）
- ・スクリーニング条件追加

効果・検証

クラブフィスコの会員数の増加
フィスコWebのページビュー数増加
サイトでの広告掲載等を促進し、収益確保を目指す

05 来期の事業計画 – 前期示した事業計画の進捗状況 (2/3)

利益の立て直しが足元的最優先経営課題であるため、事業計画の実行はペンディング中

事業計画：既存事業をベースにした事業展開（企業IR支援コンサルティングサービス）

企業IR支援業務として、配信プラットフォームを活用したサービス提供に注力しており、今後も支援企業数の増加を目指す。

事業展開の方向性

- ・オンラインIR説明会サービスの提供（小規模～大規模）
- ・株主優待サポートサービス
- ・機関投資家向けIR説明会・文字起こしサービス提供
- ・バーチャル株主総会サービス
- ・TCFD情報開示支援
- ・ESGスコア・コンサルティング

実施内容

- ・バーチャル株主総会導入法人の増加
- ・オンライン説明会導入法人の増加
- ・著名投資家とのIR説明会導入法人の増加

効果・検証

- ・複数社のサービス導入を実現
- ・配信プラットフォームの活用とサポートサービスにも注力し、支援企業と収益の拡大を図る

05 来期の事業計画 – 前期示した事業計画の進捗状況 (3/3)

利益の立て直しが足元的最優先経営課題であるため、事業計画の実行はペンディング中

事業計画：新規事業の取り組み（フィスコブランドを活用した各種プロモーション支援）

広告収入にも注力し、メディアサイト・コンテンツ制作企業との連携を拡大し、幅広い広告主へ訴求するなど、今後もブランド価値を活かせる事業を探求

事業展開の方向性

- ・フィスコブランドを活かして著名投資家との連携を図る

実施内容

- ・外部有識者と協力して、投資教育教材等の個人投資家向け販売支援を実施

効果・検証

- ・フィスコブランドの再構築
- ・今後、その他のメディアサイト・著名投資家などとの連携を密に図り、複数のプロモーション支援を同時に進行

05 来期の事業計画 - 【全体】 KGI・KPI

		前期(25年度)		今期(26年度)
カテゴリ		当初目標	実績	目標
KGI	売上	887百万円	842百万円	836百万円
	営業利益	30百万円	4百万円	20百万円
	株主還元	復配	無配	復配
KPI (IRコンサル)	IR支援 会社数	480社	490社	575社

※ KPI等の進捗状況を含む最新の内容について、次回は年度決算後の3月頃にご報告を予定しております

06 事業上のリスク

項目	影響する事業セグメント	主要なリスク	顕在化する可能性/時期	顕在化した際の影響度	リスク対応策等
事業環境の変動	情報サービス事業	株式や為替等の金融商品市場が急激に変動、サービス提供方法の多様化に対応できず、当社グループが提供するサービスが顧客のニーズにマッチできなくなる可能性	低/中長期	大	金融商品市場の変化に応じた関連サービスを多角的に展開することにより対応
法令遵守違反および情報の漏洩等	情報サービス事業	お客様等のプライバシーや信用に関する情報（個人情報を含む）、企業等の情報が誤ってまたは不正により外部に流出する可能性	低/中長期	大	関連法令・規制、情報取り扱いに関する定期的な社員研修およびコンプライアンスチェック体制により対応
人的資源への依存	情報サービス事業	優秀な人材の退社等によりノウハウや技術が流出した場合や継続して優秀な人材を養成・確保できない可能性	中/中長期	大	社内育成の他、外部アナリスト等の活用を行い、提供するサービスの品質を維持する
システムトラブル	情報サービス事業	自然災害、火災・事故、外部からの不正な手段によるサーバーへの侵入等により、重要な基幹システムに障害が発生する可能性	低/不明	大	システム監視体制の強化、電源や機器とプログラムの二重化、ファイアウォール設置と第三者によるその監視により対応
特定取引先への依存	情報サービス事業 広告代理業	特定の取引先による売上が高い割合を占めており、特定取引先との取引に何らかの支障が生じる可能性	低/中長期	大	当該特定取引先以外の取引先の開拓に努めており、依存度を低減するよう多角的なサービス提供により対応

06 事業上のリスク

項目	影響する事業セグメント	主要なリスク	顕在化する可能性／時期	顕在化した際の影響度	リスク対応策等
収益構造が下半期偏重型	情報サービス事業	主要顧客先である事業会社の多くが3月決算の会社であり、当社の上半期においては、契約の解約が発生する可能性	中／中長期	中	複数の事業展開により、顧客動向に影響を受けないサービスを提供することで対応
投融資	情報サービス事業	投融資先の事業の状況により、投融資額を回収できない可能性	低／中長期	中	M&A等投融資の際に、案件に対しリスクおよび回収可能性を十分に事前評価することで対応

(注) 有価証券報告書の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しています。その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

(注) 「新型コロナウイルス感染症リスク」は今期の事業へ大きな影響を与える見込みがなくなったため、重要性の観点で削除しております。